

## カエル調査マニュアル

カエルは、豊かな農村環境の象徴的な生物の一つであると言われています。また、カメムシやウンカなどの害虫を食べてくれる益虫の働きをしてくれます。農地周辺では、たくさんのカエルが見つかります。調査を通じて、カエルをはじめとした身近な生きものが、農業と深いかわりがあることを知っていただきたいと考えています。



## 【方法】

- 畦を歩き、とび出すカエルの種類と数をほ場ごとに記録します。
  - 調査にかかる時間は、1ほ場あたり約10～15分です。
  - 草刈り直後や気温が上がる午後はカエルが少なくなるため、避けてください。
  - 見失った、種がわからなかったときなどは「不明」に数を記録してください。
- ※調査票は調査対象のほ場ごとに必要です。必要数コピーしてお使いください。  
※カエルの種名については裏面をご参照ください。

## 【場所】

- 補助対象となる水稻栽培ほ場の中で、平均的な大きさのほ場を選び、その周辺の畦を歩いてください。
- 草刈り直後はカエルが少なくなるので、できるだけ畦の草丈が20cm程度の田んぼを選んでください。
- 調査が必要な田んぼの枚数は右下表のとおりです。ご確認ください。



## 【時期・時間】

- 7月上旬を目安に、中干し時期までに調査してください。
- 気温が上がらない午前中に調査してください。



## 【その他】

・調査様式は右記からもダウンロードできます。

農都のめぐみ認証米 生産面積(a)	調査ほ場数 (筆)
10 以上 50 未満	1
50 以上 100 未満	2
100 以上 150 未満	3
150 以上 200 未満	4
200 以上 250 未満	5
250 以上 300 未満	6
300 以上(上限)	7

生産面積あたりの調査必要ほ場数



<p><b>トノサマガエル</b></p> <p>田んぼでよくみられるカエル。模様や色は個体差がある。「ぐぐぐっ、ぐぐぐっ」と鳴く。</p>	
<p><b>ツチガエル</b></p> <p>ヌマガエルと混同され通称「イボガエル」と呼ばれる。腹に模様があるのでヌマガエルと区別できる。「げえっげえっげえっ」と鳴く。</p>	 
<p><b>ヌマガエル</b></p> <p>ツチガエルと混同され通称「イボガエル」と呼ばれる。腹に模様がないのでツチガエルと区別できる。「きうっきうっきうっ」と鳴く。</p>	
<p><b>アマガエル</b></p> <p>民家の周囲でもよくみられる。緑色で目の後ろに黒い線があることで簡単に区別できる。「ぎゃっぎゃっぎゃっ」と鳴く。</p>	
<p><b>ヤマアカガエル</b></p> <p>茶色のアカガエルの仲間です主に森林で生活する。背中にある側線が目の後ろで広がることでニホンアカガエルと区別できる。「にゃっにゃっ」と鳴く。</p>	  
<p><b>ニホンアカガエル</b></p> <p>茶色のアカガエルの仲間です主に森林で生活する。背中にある側線が目の後ろで広がらないことでヤマアカガエルと区別できる。「きゅっきゅっ」と鳴く。</p>	  
<p><b>シュレーゲルアオガエル</b></p> <p>緑色のアオガエルの仲間。目の後ろに黒い線がないのでアマガエルと区別できる。目のふちが黄色なのでモリアオガエルと区別できる。田んぼで産卵する。「くりり、くりり」と鳴く。</p>	 
<p><b>モリアオガエル</b></p> <p>緑色のアオガエルの仲間。目の後ろに黒い線がないのでアマガエルと区別できる。目のふちが赤色なのでシュレーゲルアオガエルと区別できる。池の上の木で産卵する。主に森林で生活する。「きりっ、きりっ」と鳴く。</p>	 

※ランクは兵庫県版レッドリスト 2017 による。ランク無⇒C⇒B⇒Aの順に絶滅のリスクが高い。